

## 教員長期社会体験研修 7～9 月期 研修報告

【研修先：北海道コカ・コーラボトリング株式会社】【研修者：東橋小学校 沢田 涼佑】

【担当部署】広報・CSR 推進部 広報・CSR 推進課

北海道コカ・コーラの CSR 活動には、「環境教育の推進」や「健全な地域づくり」などを目的とする、学校や学生と関わりのある活動がたくさんあります。自分の小学校教諭としての経験が活かせるよう、今回の研修でも学校や学生に関わる活動を担当する機会に恵まれています。

今回の報告では、当社が取り組む「学校・学生に関わる活動」について紹介します。

### 【水源での森づくり活動～有明小学校での『山のがっこう』～】

北海道コカ・コーラは 2013 年に北海道における環境保全・地域社会の発展に寄与することを目的として北海道大学大学院環境科学院と連携・協力協定を提携しており、『山のがっこう』は、その協定に基づいた取組です。今年度は当社の企業活動の源である白旗山の麓に位置し、豊かな地域環境を活かした特色ある教育活動に取り組んでいる札幌市立有明小学校の 5・6 年生を対象に、学校の裏側を流れる厚別川の生き物の観察を通して白旗山の生物多様性を実感し、その環境を守り育てようという意識を育てるためのプログラムを、「北大」「有明小」と「当社」の 3 者で計画しました。私も当日はスタッフとして参加し、5 年生のグループを担当しました。

厚別川を散策中



厚別川で採れたヤマメ

子どもたちはまず厚別川に入っての魚や虫を探して採る活動をした後、教室で北大の教授から自分たちが捕まえた生き物についての授業を受けました。自分たちが捕まえた魚は、きれいで冷たい水が流れる川だから生息することができるということや、山と川の関係、食物連鎖の話など、子どもたちの先の活動と理論が結び付き、実感を伴った理解へと繋がっていく様子が見られました。何より子どもたちの「もっと詳しく調べたい」「身近な山や川を大切にしていきたい」という気持ちの高まりが感じられる活動でした。

### 【コカ・コーラ環境教育賞 環境フォーラム】

「コカ・コーラ環境教育賞」とは、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が地域に根ざした環境教育・環境保全活動を促進することを目的に設立した、公募型の賞です。今年で 26 回目を迎え、毎年環境教育に関する顕著な活動への顕彰及び環境保全・環境啓発・環境美化に寄与する新しい企画への支援を行う全国の団体が、栗山町にある「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」に集まり、最優秀賞を決める最終選考会「環境フォーラム」が行われます。今年度は 8/23(金)～25(日)で開催され、私は 3 日間スタッフとして運営に携わりました。

環境教育賞には札幌市からも複数の応募があり、屯田北中学校科学部と旭丘高校生物部が最終選考会に選出されました。屯田北中科学部は絶滅危惧種であるエゾホトケドジョウを初めとする希少魚種保護活動や、地域を巻き込んだ屯田防風林のゴミ拾いと分析等を通じた環境保全の取組を、旭丘高校生物部は地球温暖化の状態を知るための種によって生息環境が異なるトンボ相の種類構成と経年変化の調査と、調査結果を用いた地域単位での

温暖化対策を目指した取組を発表しました。両校に共通することは、「自分達から周りや地域を巻き込んで環境保全の活動に取り組もう」という姿勢です。中でも旭丘高校の発表で使われた「Think Globally, Act Locally」というフレーズは、私の心に強く残るものでした。「まずは地域から」という行動の在り方について、今回の環境フォーラムを通して、より具体的に考えを深めることができました。

なお、嬉しいことに活動表彰部門で屯田北中学校科学部が「最優秀賞」と「環境大臣賞」を受賞しました。



## 【職業を通してまちを知る～道内5都市での『キッズタウン』～】

「キッズタウン」は、職業体験を通じて仕事の楽しさや社会の仕組みを学び、まちの成り立ちを理解しながら地元への愛着を育んでもらうことを目的にした親子イベントで、子どもたちは職業体験をするだけでなく、体験の「給料」として受け取った仮想の通貨を使って買い物などを楽しむこともできます。北海道コカ・コーラが毎年釧路・函館・帯広・苫小牧・旭川の道内5つの市で各自治体と共催し、教育委員会や地元企業などの協力を受けて各会場 400～600人規模のイベントを開催しています。

「キッズタウン」は各自治体の小学校に通う3～4年生を対象とした「無料」のイベントであるため、開催に関わる業務を外注することはほとんどありません。各市役所の担当課や、現地のコカ・コーラ販売課などの方々と分担・協力して運営する、大掛かりな「手作り」のイベントと言えます。また出展していただく地元企業にもすべての資材や準備作業・片付けを自己負担でお願いし、当日はたくさんの地元の高校・大学・専門学校の学生さんたちがボランティアとして参加してくださるなど、様々な人々の「地元の子どものための健全な成長の為に」という思いの上に成り立っているイベントです。

キッズタウンは前日～当日の準備や片付けのほかにも、開催に関する打ち合わせや出展企業の説明会などで何度も現地に足を運ぶなど、自治体の方と連絡を取り合いました。それ以外にも出展企業・団体のヒアリングシートをまとめる作業や、会場のレイアウト、資材の作成や発送手配、マスメディアへのリリース作成、実施後のアンケート集計や開催報告会の準備・実施など様々な業務に当たりました。また当日は朝のミーティングから始まって、学生ボランティアの対応や開閉会式の運営、写真撮影、ブースや参加児童への対応やアンケート依頼、そして夕方の会場撤去作業まで目が回るような忙しさでしたが、子どもたちが生き生きとしながらイベントに参加する姿を間近で見ることができ、大変良い経験となりました。また出展ブースには地元企業や商店のほか、釧路市や函館市であれば市場、苫小牧市であれば海上保安署など、自治体ごとの特色が見られたのも興味深かったです。



苫小牧市の企業説明会



くしるキッズタウンの様子

キッズタウンは各市で同じ内容の業務に繰り返し取り組んだため、今回の研修のイベントにおいては、見直しをもって業務に取り組むことができ、回数を重ねるごとにブラッシュアップさせることを意識して臨みました。

学校現場においても、前年度踏襲ではなく、常にブラッシュアップを意識することが重要だと思います。

## ◎ 7～9月を振り返って

今回取り上げた「山のがっこう」「環境フォーラム」「キッズタウン」は、どれも子どもを対象にした当社の CSR 活動です。どの活動にも共通することは、「環境」や「地域社会」などをテーマとした青少年の健全育成です。教師が「官」の立場として子どもの成長のために努めるのは当然ですが、今回の研修を通して北海道コカ・コーラのように「民」の立場から子どもたちの成長を支え、見守ってくれている企業や団体がたくさんあることを実感しました。

またこの3カ月は、社内外併せて多くの人と知り合いました。学校では知り合いの教師や保護者以外に自分から連絡を取ることは多くなく、自分から電話をかけるのはあまり得意でなかったのですが、社外や広報・CSR 推進課以外の社員の方々とも連携する機会が圧倒的に増えたため、面識がない方に対しても電話やメールでスムーズに連絡を取れるようになりました。

特にキッズタウンは各自治体と当社の共同開催事業ということもあり、連絡を密に取り合う必要がありました。市の職員の方と顔を合わせる回数は多くはなかったのですが、電話やメールでやり取りをしていたため、キッズタウンを無事に終わることができました。キッズタウン以外にも環境フォーラムでは、北海道・札幌市の教師として引率の他府県の教師と環境教育に限らず様々な話をするのができ、教師として多くの刺激を受けることができました。

このような多くの人との出会いは、今回の研修に参加したからこそです。残り半年の研修でも多くの出会いから様々なことを吸収して自分の見聞を広げ、教師としても、人間としても成長していきたいと考えています。